

平成 29 年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【V】
2 実践対象者	川崎町立川崎小学校 第1学年 38名, 第2学年 28名 第3学年 30名, 第4学年 42名 第5学年 42名, 第6学年 37名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体 育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	外部講師を招いて走ること（特に長距離走）に関する技術指導を通して、校内で体づくりの一環として取り組む「業間マラソン」への興味・関心を高めるとともに、日頃から運動に慣れ親しむ態度を育成する。
5 取組内容	<p>「陸上クリニック（川小ランランRUN）」</p> <p>宮城県内で陸上に関する指導を幅広く展開する「アスリートジャパン Esashi」代表の江刺善之氏を講師に招き、全校児童を対象にランニングの動き作りや、走り方のコツを教えていただいた。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>低学年，中学年，高学年を1つのグループとして，それぞれのグループが1時間ずつ指導を受けた。</p> <p>前半は，タオルを使って腕の振り方の練習をしたり，スキップやダッシュなどをおして足さばきの練習に取り組んだり，走るための体の使い方の基礎を学ぶことができた。</p> <p>後半は，直線やトラックを走りながら，個別に走り方のチェックや指導を受けることができた。</p> <p>また，高学年では，短距離走と長距離走の違いを理論的に教えていただいた。</p> </div> </div>

<p>6 主な成果</p>	<p>楽しい雰囲気づくりや一人一人への声掛けを工夫していただいたことで、子どもたちは走ることの楽しさを十分に感じることができた。ここでの学びが、業間時間の体力づくりとして取り組んでいる「業間マラソン」への意欲的な取り組みとして生かされている。本校児童は体力・運動能力調査において「シャトルラン」の結果がどの学年も落ちていることから、学校課題の底上げに寄与する取組となったと考える。</p> 
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 走ることの指導をしてくれる講師はたくさんいるが、子どもの実態に応じて楽しい雰囲気の中で指導をしてくれる人を探すために、これまでの経験やウェブサイト等を活用して情報収集を綿密に行い、本校児童の実態に合う講師を選定した。 • 講師との事前打ち合わせにおいて持久力に課題のある本校児童の実態を伝え、苦手意識を植え付けないような活動となるように、1時間の内容を講師とともに吟味した。 • 講師の他に、現役陸上部の大学生2名が指導に加わり、動きの手本を示したり、活動中の子どもたちへの励ましを行った。これにより、子どもたちを指導する人数が増えるだけでなく、子どもたちにとってコミュニケーションをとりやすい環境ができ、活動の意欲向上につながった。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本事業を受けて今年度1回の実施であったが、継続して年に2~3回指導を受けることでより効果が上がると感じる。そのためには、講師に対する謝金や旅費といった財源の保証が必要である。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 講師も来校することを望んでいるので、来年度も実施したいと考える。